



ごあいさつ

地域の皆さまの温かいご理解と後押しに、深く感謝申し上げます。

第2回定例道議会(6月18日～7月5日)では、私、渡邊靖司が自民党会派を代表して質問に立ち、人口減少が進む中での真に実効性のある地方創生政策の推進を国に強く求めるよう鈴木直道知事に促したほか、道と札幌市が共同で進めるGX金融・資産運用特区を成功に導くための取り組みの加速をはじめ、北海道・札幌のさらなる飛躍に向けた重要課題について、道の姿勢をただしました。

わが東区が活力あふれる地域の先頭に立ち、北海道・札幌の新たな時代を切り拓くため、引き続き丘珠空港の機能強化とそれに連動した地域の活性化、未来を担う子供たちの健やかな成長に向けた環境づくりに全力で取り組んでまいります。

皆さまのさらなるお力添えをよろしくお願い申し上げます。

北海道議会議員 渡邊 靖司

やすし わたなべ靖司の プロフィール

●昭和31年3月5日生まれ、A型 ●札幌市立北園小学校、明園中学校、札幌光星高校卒業、東海大学(中退) ●株式会社 丸信ワタナベ代表取締役
【北海道議会】議会運営委員会理事、環境生活常任委員会副委員長、人口減少・地方分権改革等調査特別委員会理事【自民党道連】広報委員長など【現職】 ●東区北栄連合町内会顧問 ●北栄東町内会 副会長 ●札幌村郷土記念館保存会 相談役 ●札幌市東区少年軟式野球連盟 顧問 ●日本犬ぞり連盟 特別顧問

わたなべ靖司政務調査室

〒065-0024 札幌市東区北24条東9丁目1-31 しみきまビル1階
TEL.011-750-1717 FAX.011-722-6677
<https://watanabe-yasuji.jp>

道政だより

vol.11

2024年9月発行

北海道議会
議員

札幌市東区

わたなべ靖司

やすし



委員会 視 察

環境生活委員会では 7月17日から19日の3日間で 上川、宗谷管内の 道内調査を実施しました

東川町



東川小学校、せんとぴゅあI・II(東川町)

約4ヘクタールの敷地に体験水田・農園を有する東川小の教育内容や、全国初の公立日本語学校、ギャラリーなどが設置された複合交流施設の取り組みを調査しました。

旭川市



上川中部1市7町との意見交換会(旭川市)

上川中部地域1市7町の首長と環境生活行政の地域連携の取り組みなどについて意見交換しました。

豊富町



サロベツ湿原センター(豊富町)

ラムサール条約にも登録されているサロベツ湿原における環境保全の取り組みを調査しました。

音威子府村



エコミュージアムおさしまセンター(音威子府村)

彫刻家・砂澤ビッキがアトリエとして使った廃校施設を活用し、記念館として作品を展示する同館を見学しました。

礼文町



北のカナリアパーク(礼文町)

映画「北のカナリアたち」の撮影に使われたロケセットを活用した人気観光スポットを視察しました。

利尻町



カムイウスキー蒸留所(利尻町)

2022年に設立された日本最北端の蒸留所で、初出荷を目指して酒づくりに励む生産者から現場の声を聴きました。

道政の重要課題への対応加速迫る

私、渡邊靖司は令和6年第2回定例道議会で、自民党会派を代表して質問に臨み、道政の重要課題について鈴木直道知事と活発な議論を戦わせました。北海道の確かな未来の構築に向けた地方創生政策推進の国への働きかけ強化、北海道新幹線札幌延伸の完成・開業延期によるまちづくりへの影響を最小限にとどめるための取り組みなど、待ったなしの課題を解決するための対応の加速と強化を促しました。



国の地方創生政策について

渡邊 民間有識者による報告書では道内117市町村が消滅可能性ありとされたほか、本道の合計特殊出生率が過去最低(1.06)となった。国の地方創生政策や道が果たしてきた役割に物足りなさを感じる。今後どのように対応していく考えか伺う。

知事 人口減少問題は道政の最重要課題との認識の下、一層の危機感を持ち、課題を共有する北海道・東北知事会等とも連携して国に強く働きかけるとともに、市町村や道民、民間の方々とはさまざまな課題を共有し、より実効性のある人口減少対策に取り組んでまいり。

渡邊 危機感を共有する道外の府県等と幅広く連携し、国に対し国家的最優先課題と位置づけ、取り組みを最大限強化するよう強く求めるべきだ。

北海道新幹線の札幌延伸延期について

渡邊 札幌延伸延期は2030年度末の完成・開業を困難とするもので、JR北海道の経営はもとより、札幌市をはじめ沿線自治体のまちづくりに甚大な影響を与える。鉄道・運輸機構の判断は大変遺憾。知事は建設促進に向けた新たな枠組みの設置を提案したとのことだが、今後どのように取り組む考えか。

知事 新たな枠組みとして、国や鉄道・運輸機構はもとより大きな影響を受ける駅立地自治体の首長や経済団体トップ、JR北海道社長などで構成する会議体を速やかに設置し、実務者会議も活用しながら、道民への適時適切な情報発信に努めてまいりたい。



その他の質問項目

- 次期創生総合戦略
- JR北海道の中期経営計画
- 航空機燃料問題
- エネルギー政策
- 契約事務の一点検等
- 赤れんが庁舎のリニューアル
- 医師確保と働き方改革
- 本道農業の振興
- 道産木材の供給力強化
- 本道教育の課題
- 警察署の再編整備
- 地域公共交通
- 観光振興
- 人事政策
- ヒグマ対策
- 空き家対策
- 水産業振興
- 教員確保

GX金融・資産運用特区について

渡邊 道と札幌市が共同で進めてきたGX金融・資産運用特区が対象地域に指定される見込み。今後は具体的な計画等の策定に向けて国と協議を重ね、道が独自に実施する税の優遇措置についても具体的な検討を進めることが求められる。今後どのように取り組んでいく考えか。

知事 札幌市と連携し、GX産業の集積、金融機能の強化集積に資する税目や対象事業など、先行他都市の事例などを参考に道税の優遇措置について検討している。今後、道議会議論や有識者の意見などを踏まえ、速やかに道の考え方を整理し、各般の取り組みを進める。

渡邊 道外自治体ではすでに独自の優遇税制を導入しており、道の出遅れ感は否めず早急な対応が求められる。道民にどのようなメリットが及ぶかわかりやすく伝え、理解と共感を得ながら進めることが求められる点を指摘する。

子供施策について

渡邊 道は5月、新たにこども基本条例の制定を検討すること、こども基本法に基づく都道府県こども計画として次期計画の策定を進める考えを示した。新条例にどのような内容を盛り込む考えか。こども計画策定に向けて、どのように進めるのか。

知事 新条例については、置かれた環境にかかわらず子供が子供らしく成長できる社会の実現のため検討を開始した。「北の大地・子ども未来づくり北海道計画」は、青少年健全育成や子供の貧困に関する計画を統合し、各計画の点検評価を行い、北海道こども施策審議会の意見などを反映させていく。

Interview



渡邊靖司道議会環境生活副委員長インタビュー

——委員会の中で力を入れた課題は何ですか。

まずはヒグマ対策です。昨年は朱鞠内湖での死亡事件を皮切りに、市街地でも出没が相次ぎました。ハーライフル銃の規制が強化され、猟銃免許取得後10年は所持できなくなる方向で議論が進んでいましたが、散弾銃だと至近距離からしかクマを仕留められず、ハンターの命の危険があるため、委員会として要請活動を行い、特例措置が検討されることになりました。

縄文遺跡群に関しては昨年、北海道博物館で特別展を行い、縄文文化の魅力を多くの方に知ってもらえたのではないかと思います。地域を挙げての観光客誘致についてもっと勉強すべきだと感じました。また、3月に江別にできた道立動物愛護センター「あいにく」は、災害時に飼育棟を切り離すことができる全国初の移動型の施設で、道内4カ所の動物愛護センターで最大120匹の犬や猫を受け入れる計画です。

——今後への抱負をお願いします。

政治に対して国民からの厳しい目が注がれていますが、地域の皆さんの思いをわれわれがきちんと受け止め、信頼される政治を進めていかなければならないと肝に銘じています。